



# 外国学習歴・資格認証 (Foreign Credential Evaluation/Recognition) に関する実態調査【調査速報】

---

一般社団法人 大学行政管理学会  
海外職員団体等調査・連携企画チーム

赤松 茂利

## 1-1. アンケート回答数

調査期間	2022年5月11日（水）～6月30日（木）	
調査対象校（メール送付による依頼）	578校	計 684校（※）
調査対象校（問い合わせフォーム経由の依頼）	106校	
アンケート回答数	96	
アンケート回収率	14.0%	

※ 残る121大学はウェブサイト、入試要項にメールアドレスもしくは問い合わせフォームが公開されておらず、調査依頼文を送付することができなかった。全国の大学は以下の情報に基づき調査した。

文部科学省ウェブサイト、「教育」、[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/link/1294885.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/link/1294885.htm)（閲覧日2022/07/11）

## 1-2. 回答者の所属

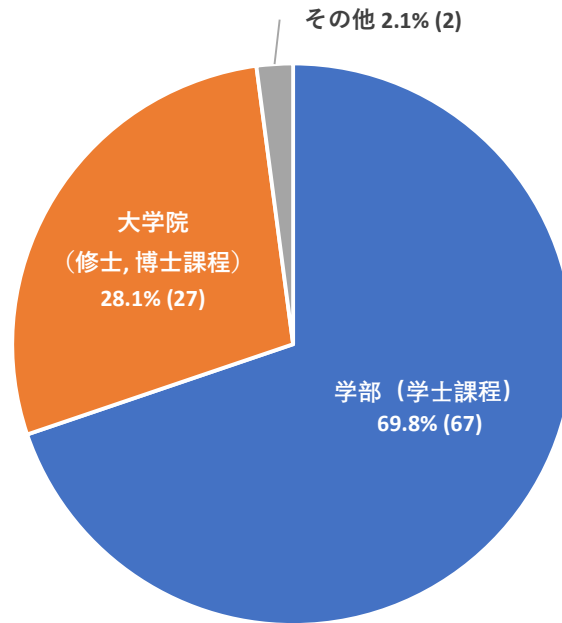
私立	国立	公立	計
63	21	12	96
65.3%	22.1%	12.6%	100.0%

大学数	部署数	非公表	計
	55		

## 1-3. 回答者の属性

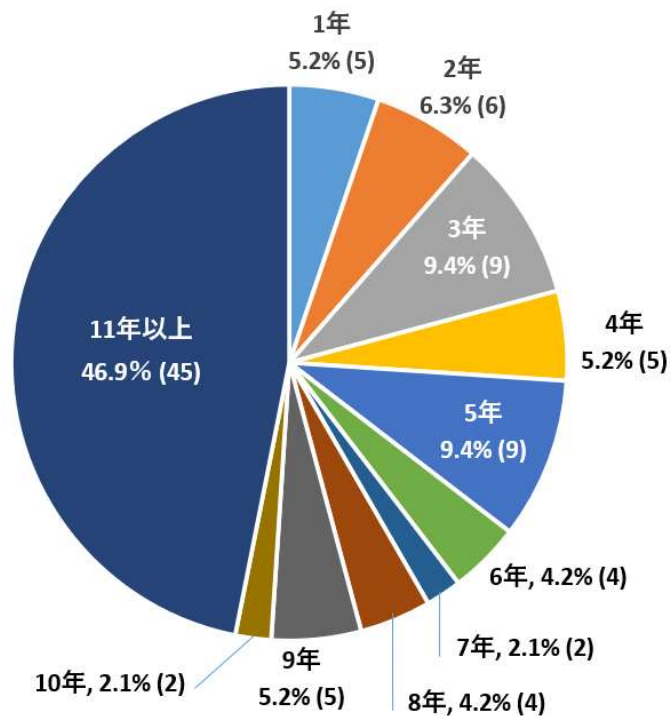
職員	教員	計
92	4	96
95.8%	4.2%	100.0%

#### 1-4. 回答者がFCEを対応する課程



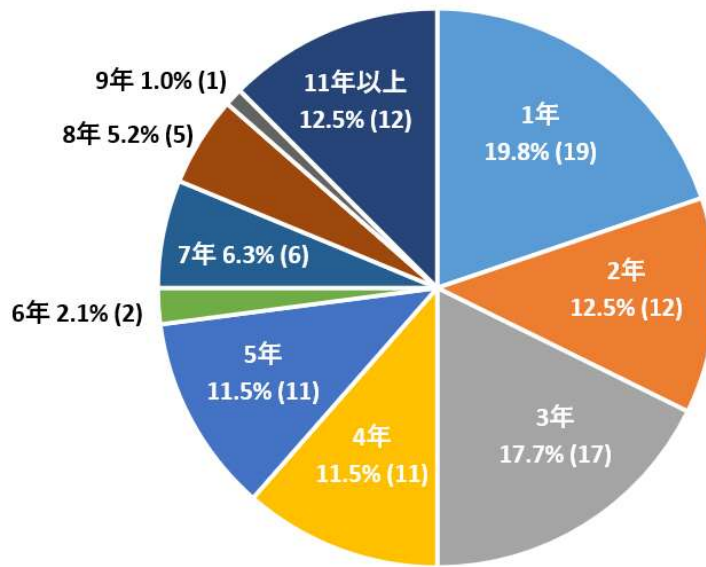
n = 96

#### 1-5. 回答者の勤務経験 (通算年数)



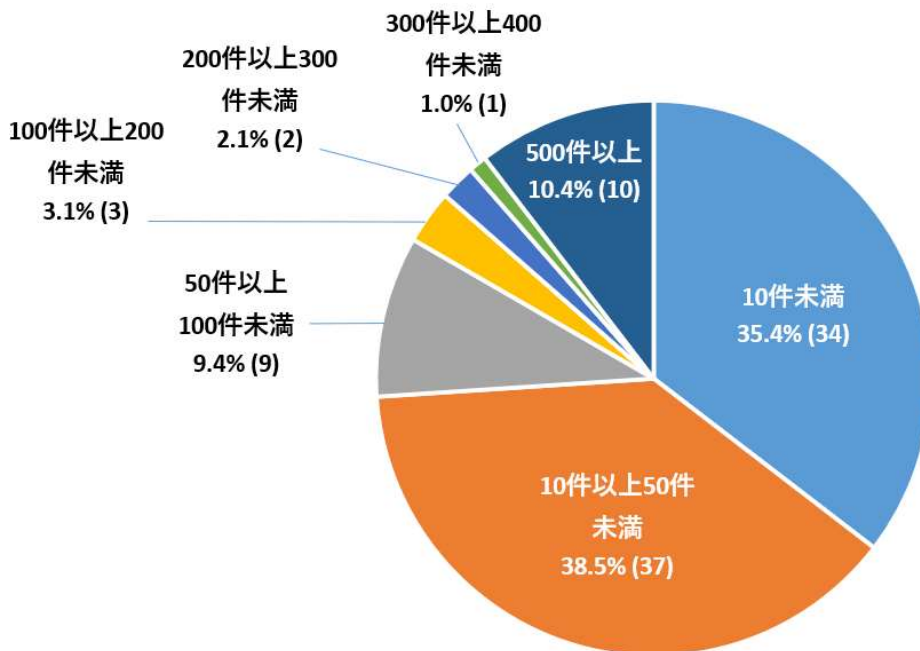
n = 96

### 1-6. 回答者のFCE従事経験（通算年数）



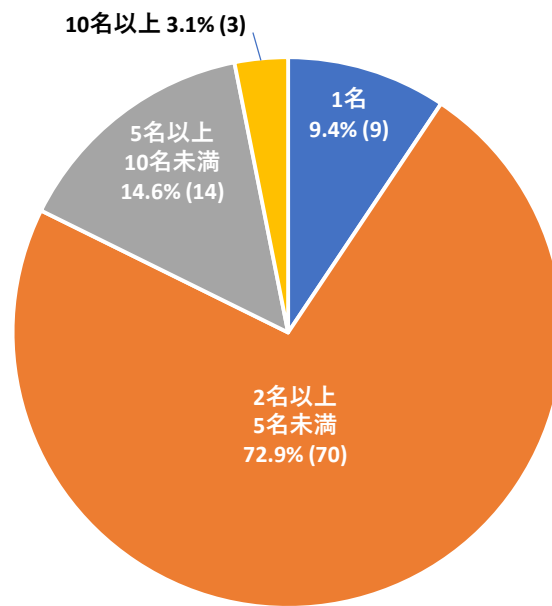
n = 96

### 1-7. 回答者のFCE対応件数（年）



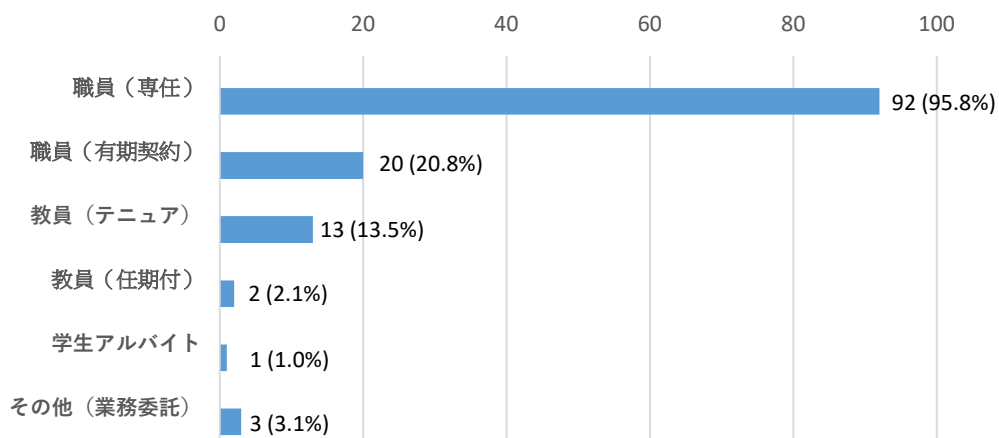
n = 96

### 1-8. 回答者が所属する部署でFCEに従事する人数



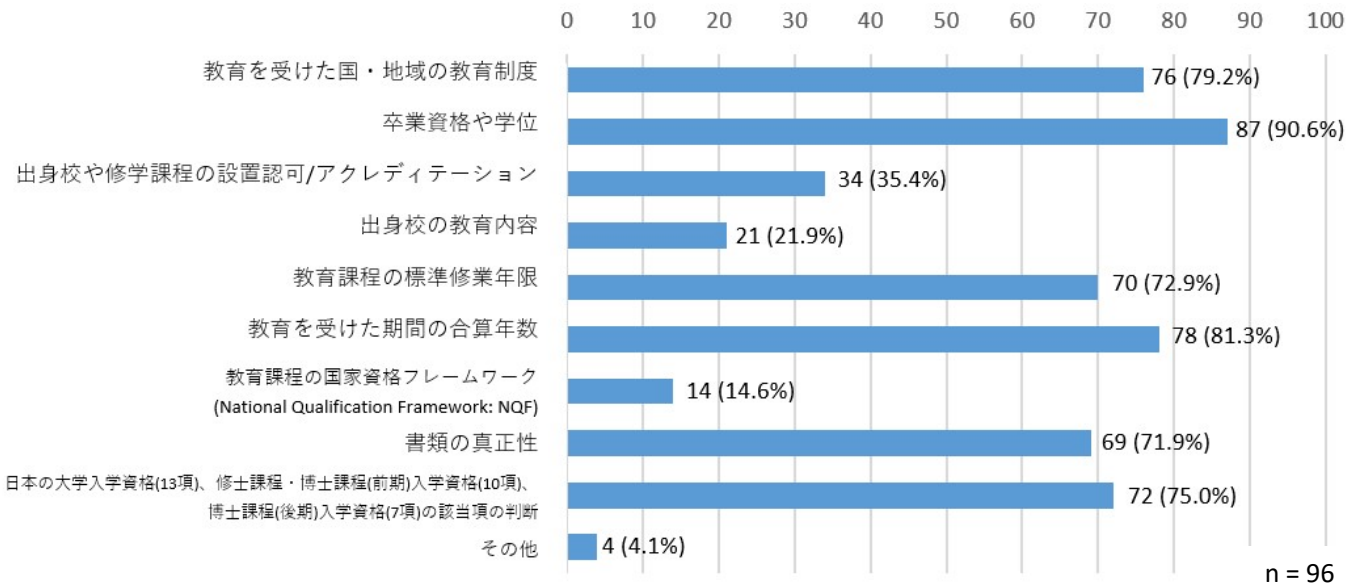
n = 96

### 1-9. FCEに従事する人員の属性（複数選択可）

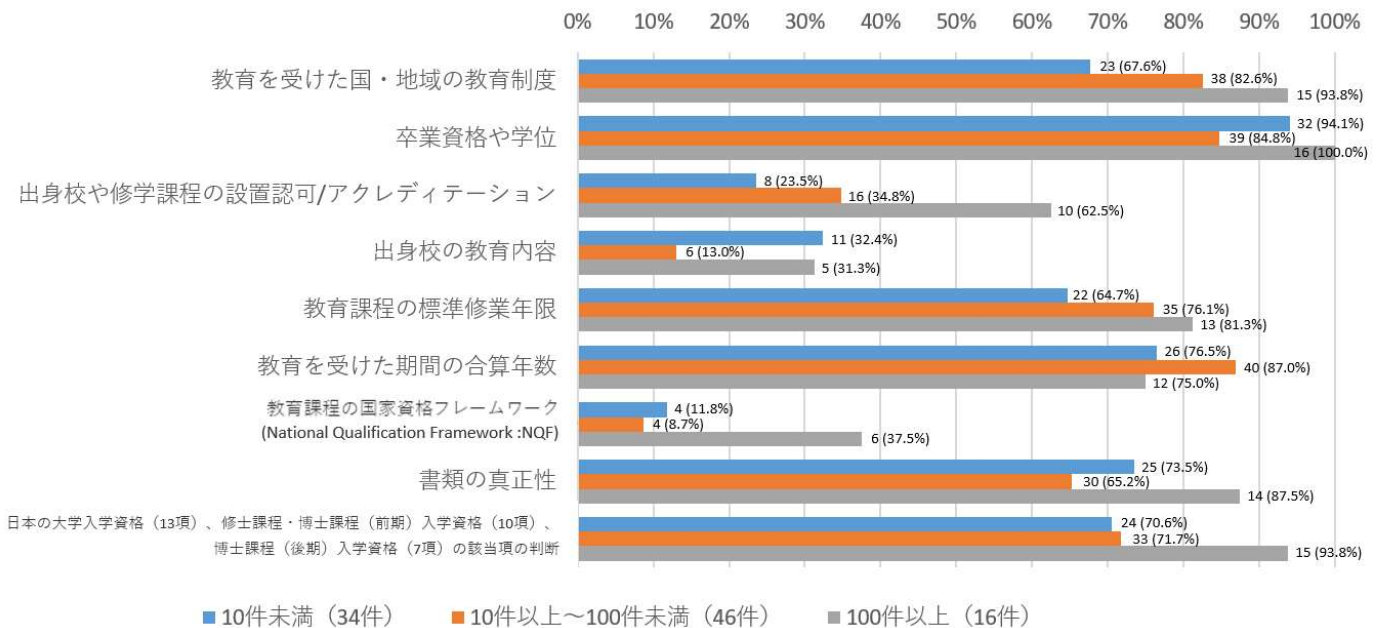


n = 96

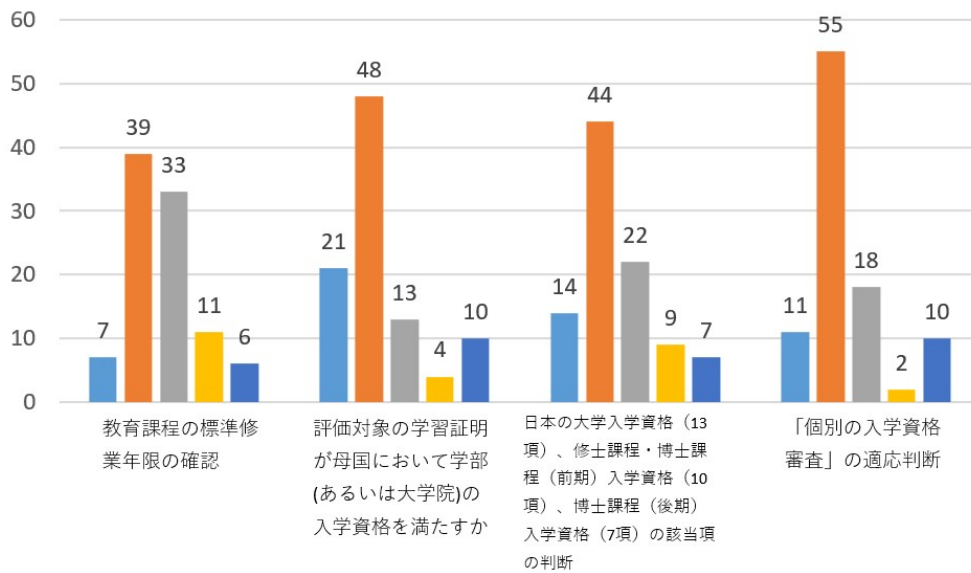
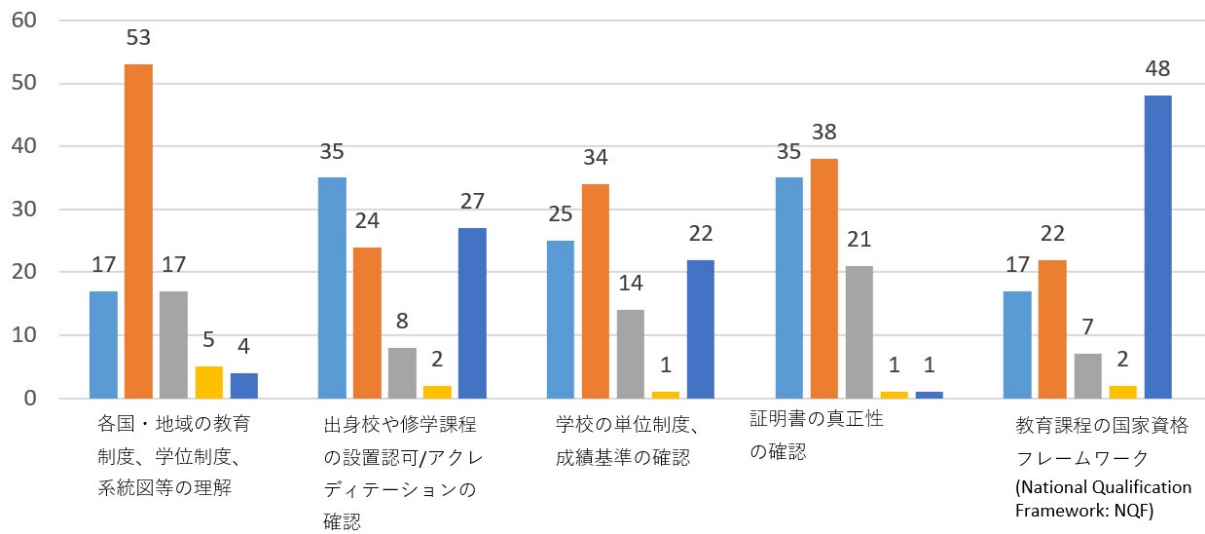
## 2-1. FCEで確認する項目（複数選択可）



### 2-1-1. クロス分析（FCEで確認する項目 × FCEの年間対応件数）



## 2-2. FCEの難易度



■ 困難 ■ やや困難 ■ やや容易 ■ 容易 ■ 該当なし

## 2-2-1. クロス分析（FCEの難易度×FCE従事経験年数）

	平均値			F値	確率	p値(※)
	1～3年	4～6年	7年以上			
各国・地域の教育制度、学位制度、系統図等の理解	2.933	2.913	2.792	0.265	0.768	n.s.
出身校や修学課程の設置認可/ア krediteーションの確認	3.344	3.368	3.278	0.063	0.939	n.s.
学校の単位制度、成績基準の確認	3.194	3.091	3.048	0.253	0.777	n.s.
証明書の真正性の確認	3.043	3.208	3.174	0.320	0.727	n.s.
教育課程の国家資格フレームワーク (National Qualification Framework: NQF)	3.182	2.929	3.250	0.590	0.558	n.s.
教育課程の標準修業年限の確認	2.545	2.522	2.261	1.004	0.371	n.s.
評価対象の学習証明が母国において学部（あるいは大学院）の入学資格を満たすか	3.022	3.000	2.950	0.060	0.942	n.s.
日本の大学入学資格（13項）、修士課程・博士課程（前期）入学資格（10項）、博士課程（後期）入学資格（7項）の該当項の判断	2.771	2.636	2.632	0.275	0.761	n.s.
「個別の入学資格審査」の適応判断	2.878	2.792	2.952	0.343	0.710	n.s.

※ \*p<.05, \*\*p<.01

FCEの従事年数の長短（設問1-6）によって平均値に差が出るとの仮説を立て、回答をFCEの従事年数に応じて「1～3年」、「4～6年」、「7年以上」の3群に分類した。

そのうえで、リッカート尺度をそれぞれ「容易=1点」、「やや容易=2点」、「やや困難=3点」、「困難=4点」に換算し（「該当なし」は除外）、3群の平均値を算出した。これら群間の平均値の差を一元配置分散分析によって求めた結果が上の図である。すべての項目において確率は5%以上となり、帰無仮説（平均値に差はない）を棄却する有意差は認められなかった。

## 2-2-2. クロス分析（FCEの難易度×FCEの年間対応件数）

	平均値			F値	確率	p値(※)
	10未満	10以上～100未満	100以上			
各国・地域の教育制度、学位制度、系統図等の理解	3.000	2.892	2.917	0.185	0.832	n.s.
出身校や修学課程の設置認可/ア krediteーションの確認	3.500	3.323	2.929	2.631	0.079	n.s.
学校の単位制度、成績基準の確認	3.241	3.100	3.000	0.624	0.539	n.s.
証明書の真正性の確認	3.265	3.067	3.000	0.854	0.429	n.s.
教育課程の国家資格フレームワーク (National Qualification Framework: NQF)	3.300	3.278	2.500	4.224	0.021	*
教育課程の標準修業年限の確認	2.727	2.405	2.067	3.897	0.024	*
評価対象の学習証明が母国において学部（あるいは大学院）の入学資格を満たすか	3.121	2.897	3.000	0.747	0.477	n.s.
日本の大学入学資格（13項）、修士課程・博士課程（前期）入学資格（10項）、博士課程（後期）入学資格（7項）の該当項の判断	2.839	2.571	2.909	1.238	0.295	n.s.
「個別の入学資格審査」の適応判断	3.067	2.675	2.933	2.874	0.062	n.s.

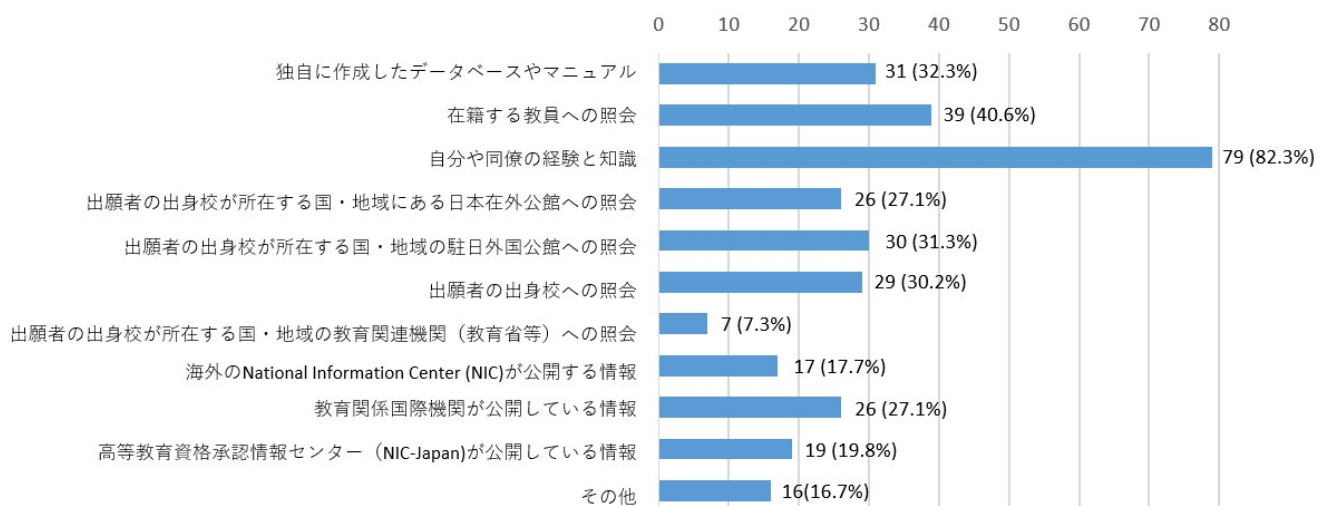
※ \*p<.05, \*\*p<.01

年間のFCEの対応件数（設問1-7）に応じて回答を「10件未満」、「10件以上・100件未満」、「100件以上」の3群に分類し、群間の平均値の差を求めた。

その結果、「教育課程の国家資格フレームワーク (National Qualification Framework: NQF)」、「教育課程の標準修業年限の確認」の2項目において、有意な差を認めることができた。

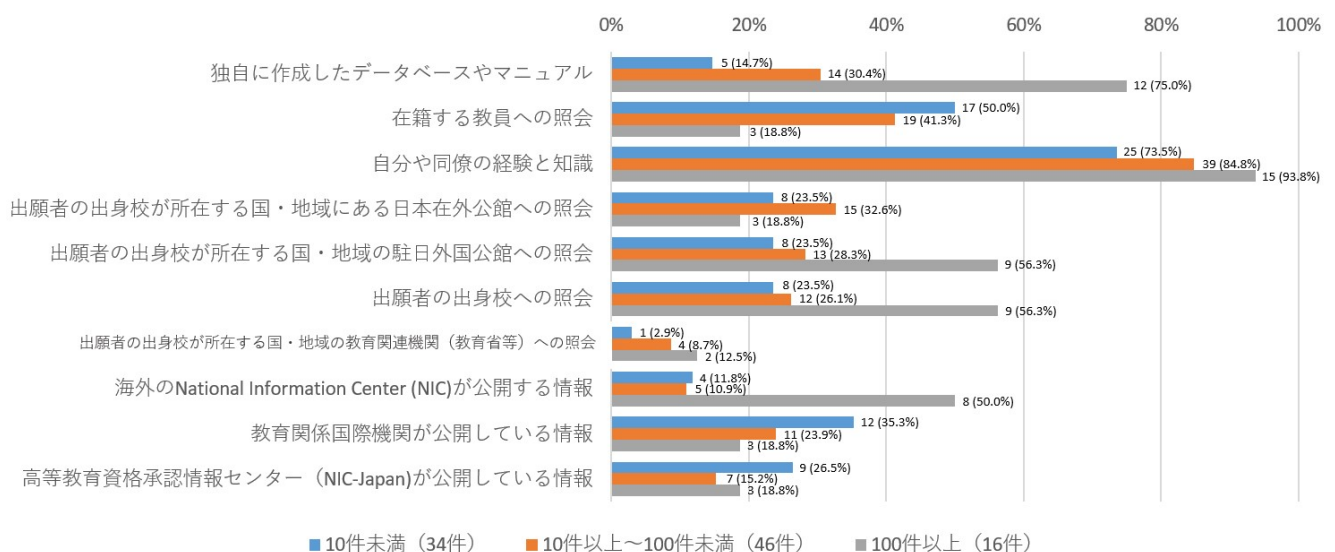


## 2-3. FCEにあたり利用している情報源（複数選択可）

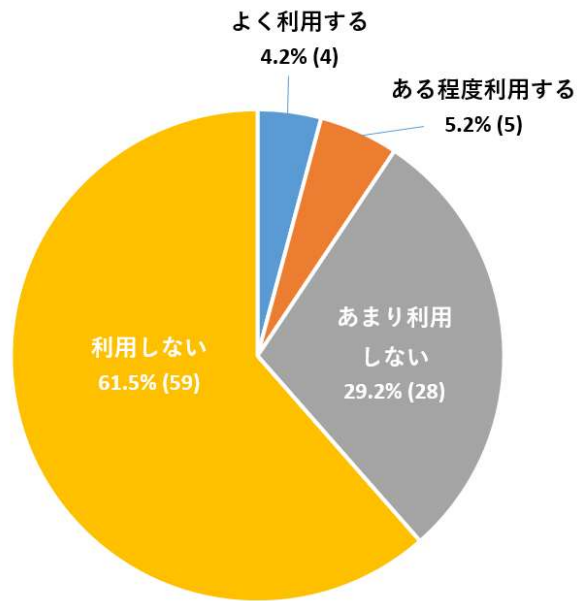


n = 96

### 2-3-1. クロス分析（FCEにあたり利用している情報源 × FCEの年間対応件数）

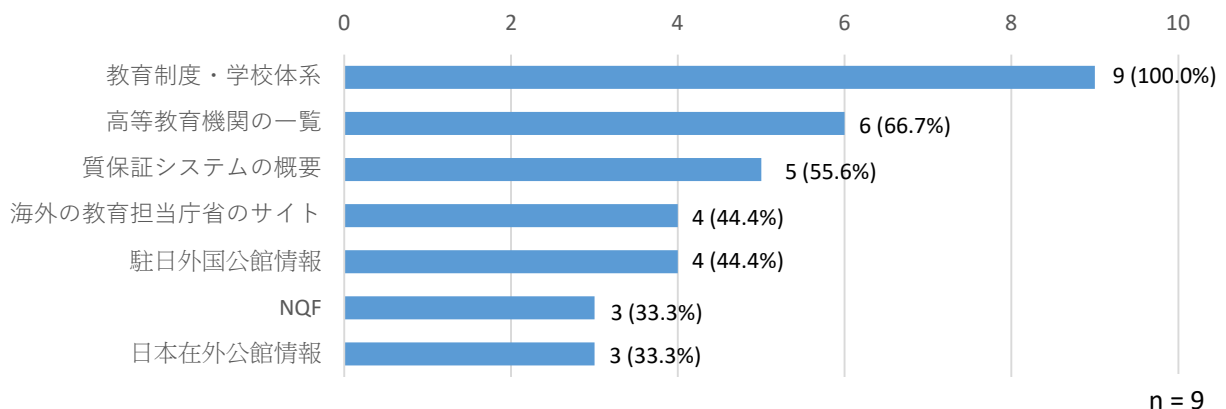


### 3-1. FCEの遂行にあたり、NIC-Japanの情報を参照するか



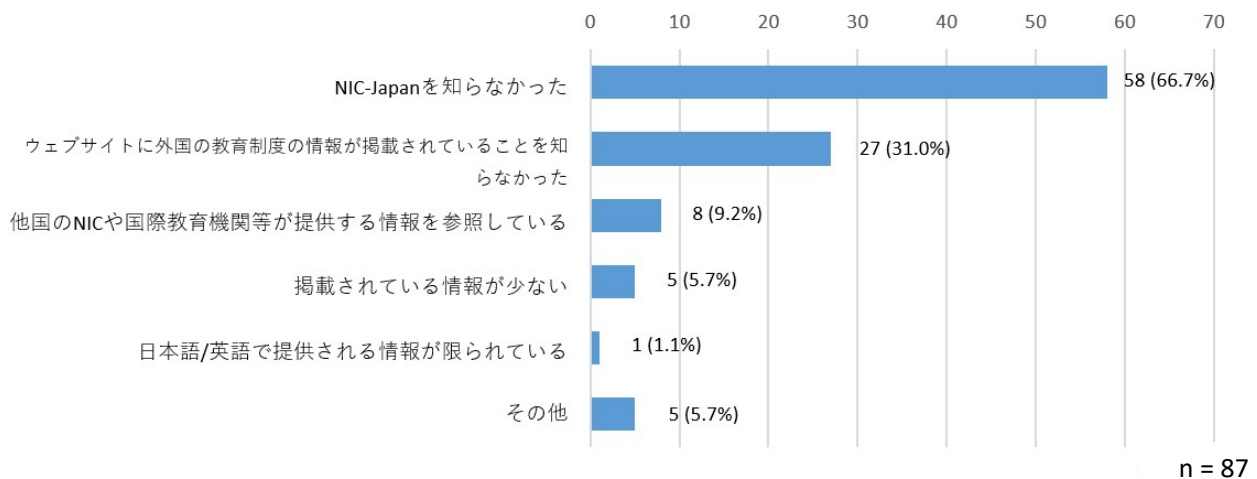
### 3-2. NIC-Japanが提供する、どのような情報を参照するか（複数選択可）

※ 3-1で「よく利用する」「ある程度利用する」と回答した者

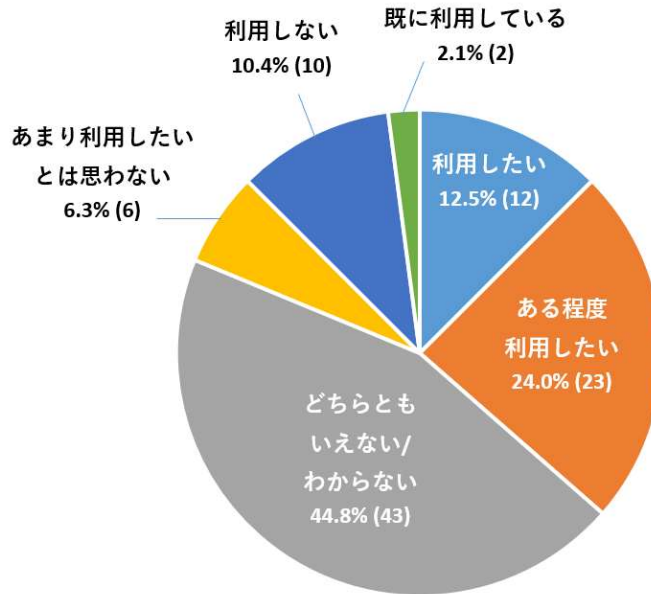


### 3-3. NIC-Japanの情報を参照しない理由（複数選択可）

※ 3-1で「あまり利用しない」「利用しない」と回答した者



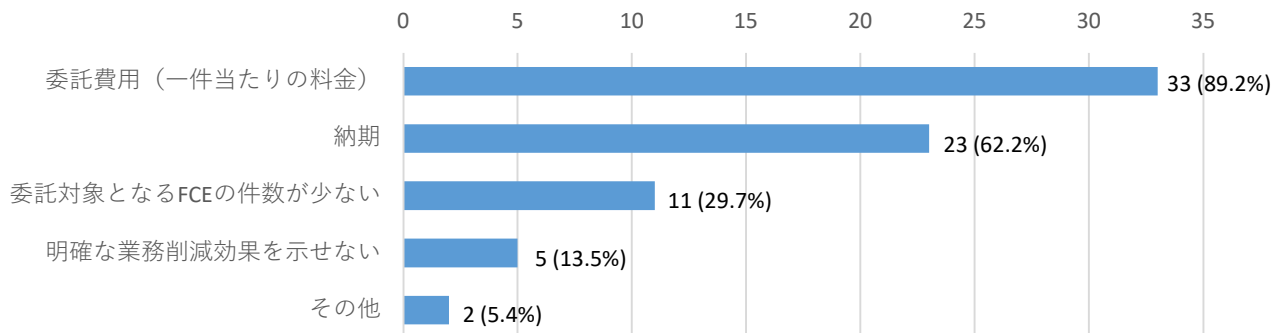
#### 4-1. FCEの業務委託を利用したいか



n = 96

#### 4-2. 委託を検討する際の課題

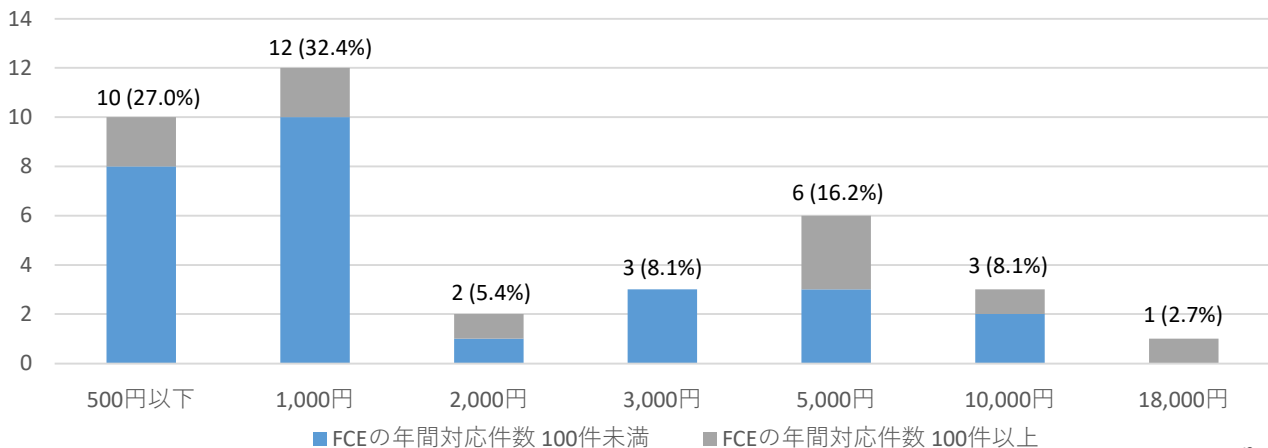
※4-1で「利用したい」「ある程度利用したい」「既に利用している」と回答した者



n = 37

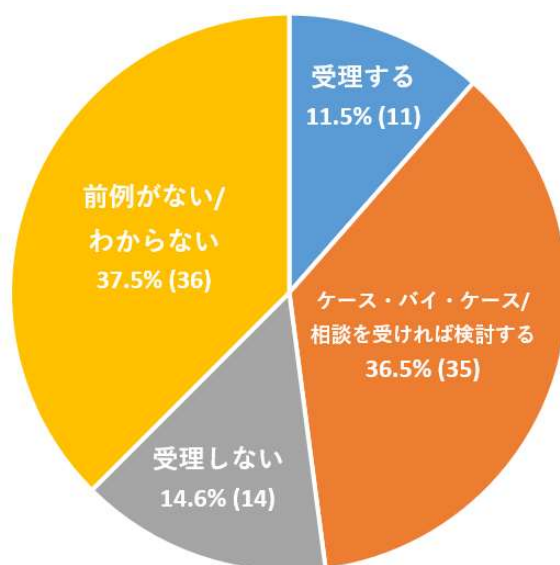
#### 4-3. 一件当たりの委託費はどの程度が妥当と考えるか

※4-1で「利用したい」「ある程度利用したい」「既に利用している」と回答した者



n = 37

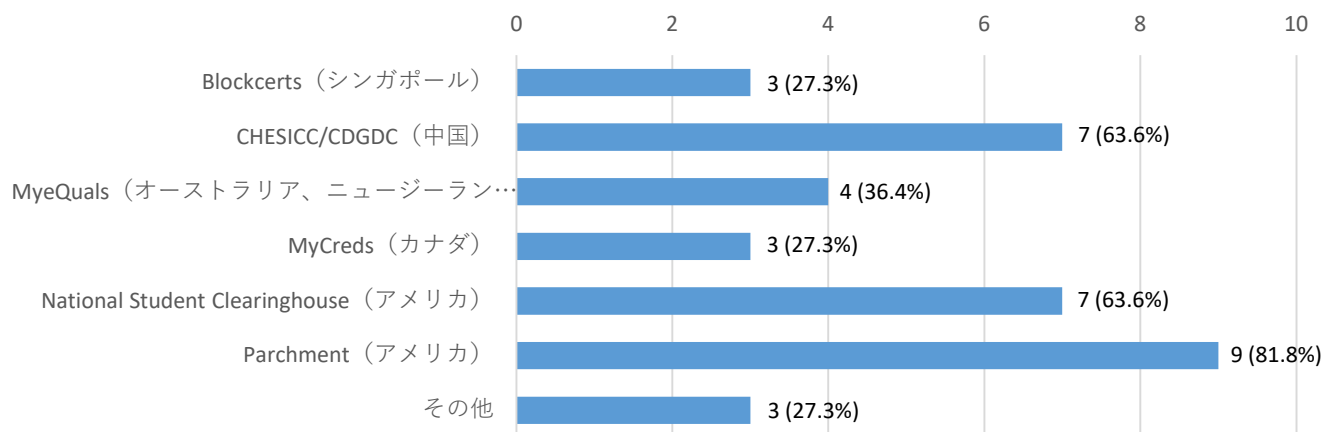
## 5-1. 電子証明書を受理するか



n = 96

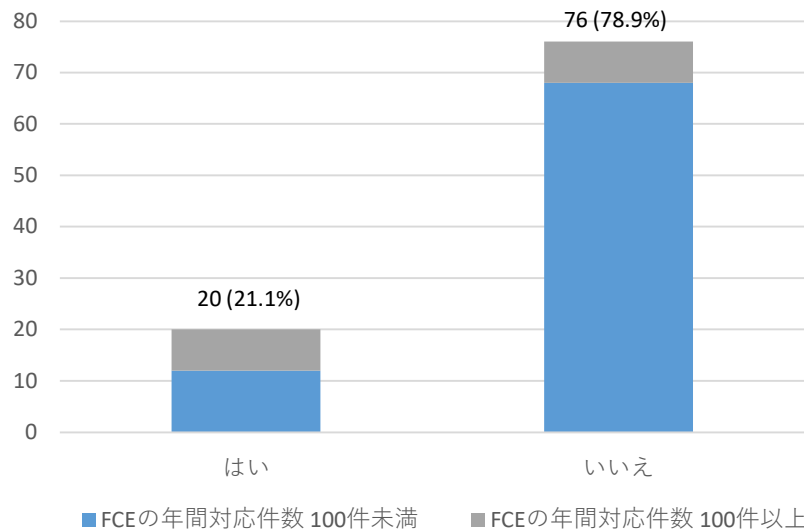
## 5-2. 受理する電子証明書のサービス名/発行機関名（複数選択可）

※ 5-1で「受理する」と回答した者



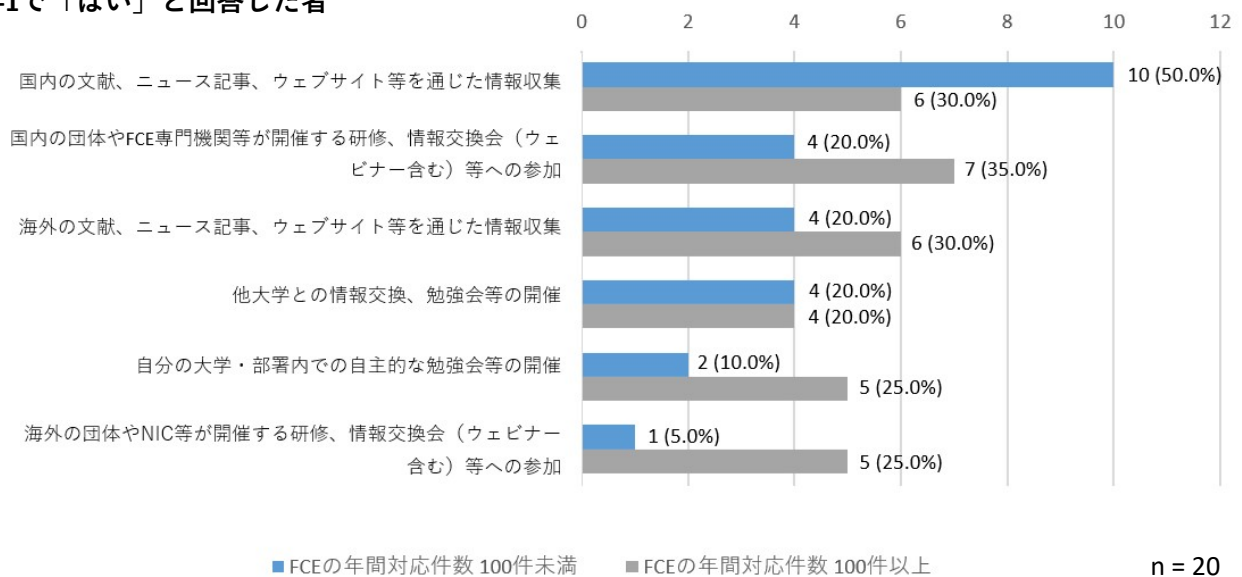
n = 11

## 6-1. FCEのスキル開発や自己啓発に取り組んでいるか



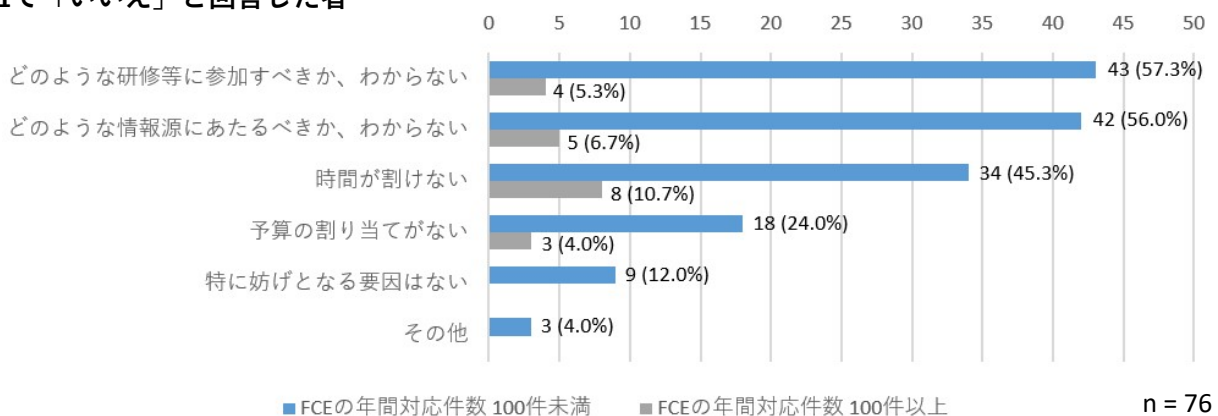
## 6-2. スキル開発の取り組み（複数選択可）

※ 6-1で「はい」と回答した者

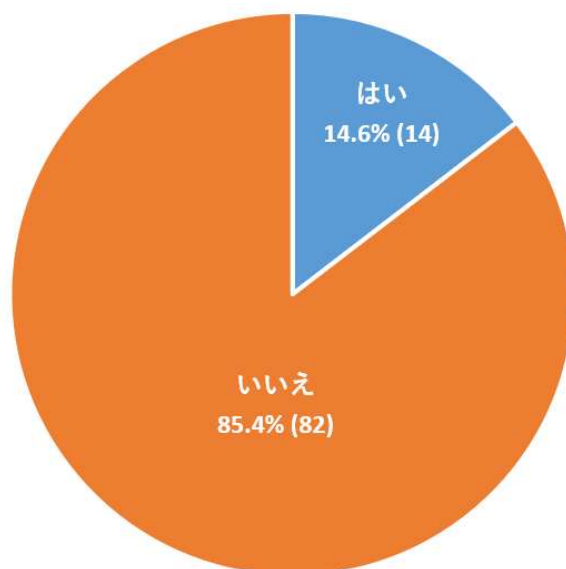


## 6-3. スキル開発が困難な理由（複数選択可）

※ 6-1で「いいえ」と回答した者



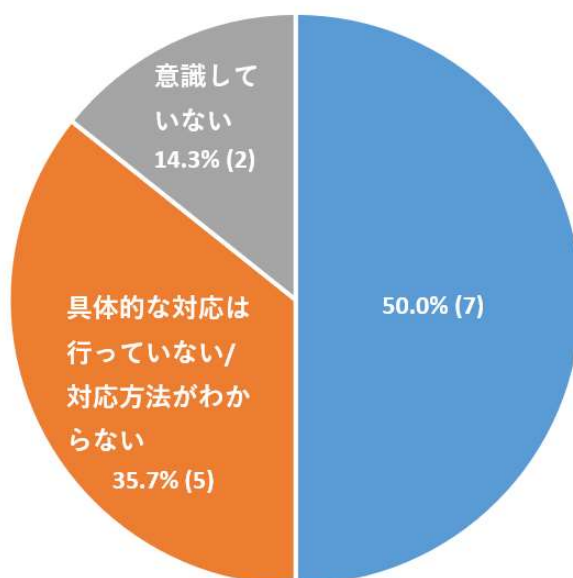
7-1. 「高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約（東京規約）」の内容を把握しているか



n = 96

7-2. 日々のFCEの遂行にあたり、どの程度東京規約の内容を意識しているか

※7-1で「はい」と回答した者

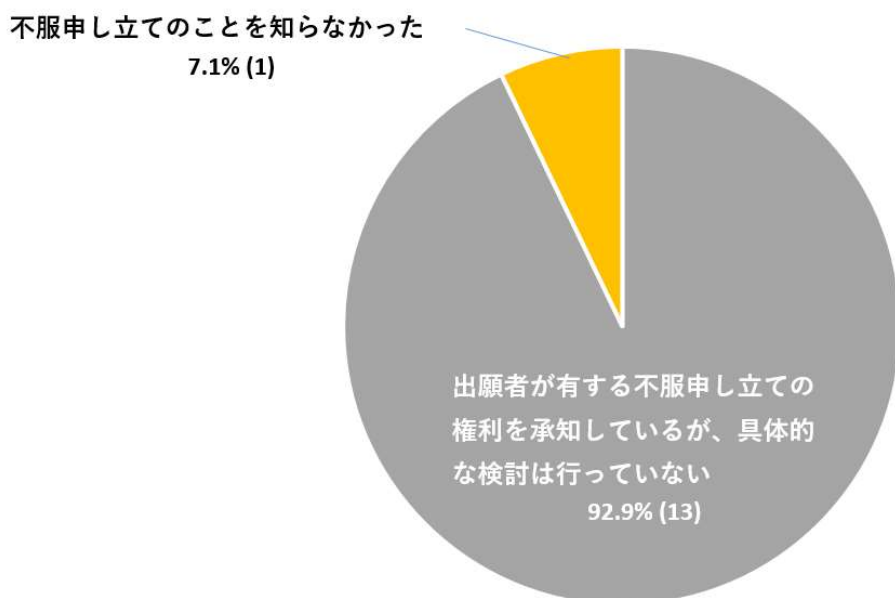


意識した対応を行っている  
(例：大学入学資格1項～12項に該当せずとも学修課程の同等性が認められる場合、13項(個別の入学資格審査)を積極的に適用させる、など)

n = 14

### 7-3. 出願者が「合理的な期間内に、適切な手続を通じて不服申し立てを行う権利を有する」ことへの対応状況

※7-1で「はい」と回答した者



### 7-4. 出願者に対して「承認を得るためにとり得る措置に関する情報が提供される」ことへの対応状況

※7-1で「はい」と回答した者

